

川崎市民のための生涯学習情報誌

Stage Up

ステージアップ VOL.202 2015年2月1日 (隔月発行)



もくじ

2 まち・ひと・多面体

- ・地域の学生による学習支援
- ・川崎宿麦わら細工の普及、継承

3 シニアのパレット

- ・宮内の郷土史を次世代へ繋ぐ

4 特集

～読書のまち・かわさき～

6 施設めぐり

7 情報ポケット

《かわさぎの名所シリーズ⑥》

こかげさんしどう

蚕影山祠堂川崎市重要歴史記念物

誌 上 ギ ャ ラ リ ー

1863(文久3)年に養蚕の豊作を祈り、その神様を祀るために建てられた祠堂です。この祠堂は、養蚕の神「蚕影山大権現」を祀る宮殿と、それを安置する覆堂より構成されています。もと川崎市麻生区岡上の東光院境内に祀られていましたが、養蚕の衰退した後、1969(昭和44)年に川崎市に寄贈され、翌年日本民家園に移築し、復原修理されました。現在は、日本民家園で保存・公開されています。

《交通手段》 小田急線「向ヶ丘遊園」南口駅下車、徒歩13分・JR南武線「登戸」駅下車、徒歩25分



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

<http://www.kpal.or.jp/> Eメール:stage-up@kpal.or.jp



当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体

「地域の大学生による学習支援」 ～むじなが寺子屋の取組～



個別支援①

2014年から市の施策として「地域の寺子屋」が行われていますが、その前から「むじなが寺子屋」(以下「寺子屋」という)は、取り組んでいます。その「寺子屋」の代表岡部遼太さんと友人の清水俊紀さんが中心となり、2013年4月、学生17名を集めて発足。「むじなが」の由来は、学生たちが子どもの頃「むじなが池」で楽しく遊んだ思い出があり、楽しく学ぶ場所にしたいや日頃から自分たちが育った環境と人との繋がり、素晴らしいと感じて欲しい等の思いをもって、名付けたといひます。



むじなが池

今まで僕たちを育ててくれた地域を、次は僕たちが育てる番といい、大学受験も終わり自分たちができる地域貢献を真剣に考えていると岡部さんは話します。

6月に「新ゆりグリーンタウン」に20名の子どもが集まり不安の入り混じる中で一回目をスタートさせたと当時のことを振り返るように話します。

学校の先生方よりも、子どもとの年齢が近いため友だち感覚で接することができるかと話します。



個別支援②

先生には聞けないことも相談しにきてくれるので「寺子屋」を始めてよかったといひます。「寺子屋」は、元白山小学校と真福寺小学校、現王禅寺中央小学校の卒業生で構成

され、互いの気心を知っていることも円滑な活動に繋がっています。

「寺子屋」では、地域の小、中学生に予習や復習を中心に支援しています。時には、自分たちの子どもの頃や将来のことも話すことがあるといひます。

「寺子屋」は、2ヶ月に1回。午後1時から午後5時まで、入退室は自由です。子どもは、学校や塾の宿題等、自分で必要な課題を持って来ます。支援するうえで大切にしていることは、「子どものニーズに合わせて楽しく学ぶこと。子どもたち一人ひとりの思いを大切にすること」といひます。

子どもが、「寺子屋」を終えると「楽しかったよ。また来るね」、保護者からも「もっと定期的に行って欲しい」の声があり、「寺子屋」の活動が認めてもらえたような気になり、疲れも吹き飛んでしまうと笑みを浮かべて話します。



個別支援③

教育委員会からの後援を受けたことを生かし、中学校、PTA、自治会、まちづくり協議会等とも協力・連携を考えていきたいと話しています。また、地域をよく知るためにも「夏祭りや納涼祭等の地域の催しには、積極的に参加したい」と意欲を覗かせます。

■問合せ: むじなが寺子屋 岡部遼太 TEL 080-3392-0224

「川崎宿 麦わら細工」の普及と継承をめざす ～「麦人の会」の取組～



川崎大師門前の変わる細工販売店(明治40年時)郷土出版社提供による

『麦の穂を便りに つかむ別れかな』芭蕉が門人と最後の別れとして川崎宿の情景を詠まれた句碑が川崎区八丁畷にあります。その川崎宿の土産の麦わら細工の影が今は薄く、麦わら細工の復活のためにと2009年「麦人の会」が発足。代表の池田ハルミさんは、麦わら細工の魅力を川崎内外に発信し、川崎宿の歴史や文化の普及、継承、地域の魅力の発見に繋げています。2010年から2年間、教育文化会館大師分館(プラザ大師)自主企画事業で、麦わら細工講習会を開催。2012年には、「いきいきかわさき区提案事業」の承認を受け提案、川崎区との協働講習会等実施してきました。現在、受講生の中から指導者も誕生し、東海道川崎宿のPR イベント等に参加しています。池田さん自ら、第二次大戦時に途絶えたといわれる川崎宿麦わら細工を復活させたく、大田区大森に伝わる「大森のわら細工(大田区大森博物館)」に通い作り方を学んできました。

「川崎宿麦わら細工」命名について池田さんは、「大森の麦わら細工はわらを着色して作る。川崎宿麦わら細工は、麦の自然色が放つ美しい金箔の輝きを大切にしているので区別したかった」と説明します。



▲川崎宿麦わら細工の作品

川崎区では、わら細工の材料「麦」の栽培がなく、市内の福祉サービス事業所や協力団体の協力で「麦人の会」が成り立っているといひます。また、麦わら細工の活動は各団体との絆を強め、地域のネットワーク化に繋がり、さらに広がっていくことも期待しています。

「麦人の会」を支える団体の取組。

- ①「芭蕉の句碑を保存する会」が麦を育て、材料を提供
- ②「はぐるまの会」(2014年～)における農作業を行う地域作業所「はぐるま工房」による六条大麦の栽培と提供
- ③地域作業所「むぎの穂」による麦わらのアイロンがけと「ゆずりは園」が作るはがきを使用
- ④川崎市市民ミュージアム学芸員による編み細工の指導

【麦わら細工(はがき)の製作過程】



「麦人の会」はこれからも東海道川崎宿の歴史や「川崎宿麦わら細工」の普及・継承を幅広い年齢層に伝えていきたいと考えています。

■問合せ: 「麦人の会」池田ハルミ TEL 044-333-0656

宮内の郷土史を次世代に伝えるために ～宮内郷土史フォーラムの取組～



宮内春日神社

中原区宮内には、春日神社や常楽寺(愛称「マンガ寺」)、川崎最古の寺子屋(高願寺、宮内学舎～宮内学校へと変遷)等多くの歴史的文化財が存在しています。その代表ともいえる「春日神社」を調査・研究し、2007年に「春日神社誌」を刊行した編集委員の有志で、「宮内郷土史フォーラム」(以下、「フォーラム」という)を発足。現在も、調査・研究の時代区分を「明治から現代まで」として勉強会が続けられています。今回、「フォーラム」の事務局長 野口英雄さんから子どもの頃の疑問や関心、発足のいきさつ、史実等と地域の活性化との関連について伺いました。

宮内の疑問は、幼い頃から

「フォーラム」の会員は、幼い頃から宮内の地に対する疑問や古老から聞いた数々の昔話等、尽きない多くの興味をそれぞれが温め続けてきたといえます。

そして「宮内」の地名は、宮中との繋がりを想起させ、村や町という呼称もつかずに孤高の存在を感じさせる。又、この土地は、古代藤原氏の荘園で、集落の鎮守春日神社は、荘園の守り神として奈良春日神社から分祠されたものだと聞かされて育ったと話しています。



▲春日神社禁足地

宮内は、文化財の宝庫

地域の代表的な文化財の一つ春日神社は、聖武・嵯峨両天皇の時代に建立されたという伝説が今でも残っています。確かに春日神社を訪れるとうっそうたる森がありその雰囲気を感じさせます。

また、神社の中心部には、石囲いの禁足地があります。今でもこの禁足地には絶対に入ってはならないという言い伝えがあります。

宮内の調査・研究は、一時中断したこともありましたが、1955年に地域の青年会や子ども会の再興によって、伝承行事復活と調査・研究の再開もされました。

その時に調査・研究した人々は、古老から聞いた話をノートに書き付け、江戸時代に編纂されたという「新編武蔵野風土記稿」を何度も読み返したといえます。そこに書かれた内容は、近隣の村々と比べて詳しく紹介されているため、研究の大きな励みになったといえます。今では、その時代の人々も亡くなり、これからは、野口さんたちが次世代へ伝える立場ということを実感したといえます。その時のメンバーも含め「フォーラム」は、現在、小島康宏さんを代表に約8名で活動しています。2008年から現在まで50回以上の勉強会を重ね、宮内郷土史研究にかける情熱を感じさせます。「難しい研究だが我が町を調べることは楽しい。昔も今も、第一線の先生方との交流を重ね、自由闊達(かったつ)に勉強会ができることはうれしい」と話しています。



▲勉強会

史実を語り継ぐことは、地域の活性化に繋がる

「現在の宮内は商店街が衰退し、目立つのは、高齢者施設。秋の祭礼は、大勢の神輿を担ぐ人で賑わうがそれ以外は、静かな住宅街。」と現状を話します。

このような地域の環境価値を高め、住む人皆でコミュニティ力を生み出す一つに、宮内の歴史を知り、文化財や伝承行事を学ぶことにあると考えています。そのためには、郷土史研究のレベルをもっと上げて、文化財を保護し地域活性化に繋げることが大切と話します。また、研究冊子や広報誌等を残すことが、次世代へ継承していくための確実な方法と考え、2013年に「郷土史ノート」を作成しています。



▲「宮内は古墳と森のある町」川崎教育文化研究所発行

郷土史研究を次世代へ継続させる役割

- ①文化財保護・・・自治会
- ②地域環境価値の向上・・・自治会
- ③次世代への伝承・・・「フォーラム」
- ④学校教育への情報提供・・・「フォーラム」による、地域の小学校4年生に自らの足で町を歩き、遺構を確かめる二ヶ領用水関連の授業協力
- ⑤調査・研究の掘り起し・・・「フォーラム」



▲子どもに説明



▲宮内小4年生の遺構学習

「明治から現代まで」の史誌の発刊をめざして

「フォーラム」は一人でも多くの人たちが、宮内という郷土を知り、歴史や文化財を知ることが「私たちの宮内」という郷土愛を育むことになり、そのことが何年後に地域の活性化に繋がっていくと信じ、仕事を終えてから深夜遅くまで勉強会を行っています。

一日でも早い史誌の完成を待ちたいものです。

参考資料「郷土史研究ノート

宮内は古墳と森のある町』から

■問合せ: 事務局長 野口英雄 TEL 044-766-1417





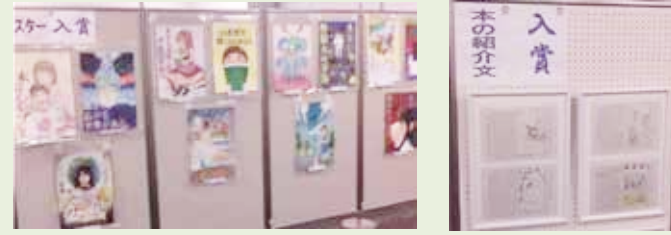
本の魅力を知ろう 味わおう 見つけよう

～「読書のまち・かわさき」の取組～

「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人たちと会話をかわすようなものである」(デカルトの言葉より引用。)川崎市は2000年の子ども読書年を契機に、「読書のまち・かわさき」の事業を立ち上げました。4年後、「読書のまち・かわさき」子ども読書活動推進計画(第1次)を作成し、川崎らしい読書活動に取り組んできました。その後2011年、これまでの事業経過を踏まえ、川崎らしい読書活動推進にかかわる施策を総合的、計画的に進めるため「読書のまち・かわさき」子ども読書活動推進計画(第2次)を作成し、子どもの読書活動の拡充と発展に努めています。

I. 2014年度 第12回「かわさき読書の日のつどい」優秀団体の取組

「かわさき読書の日」(11月第1日曜日)に川崎市教育委員会と読書のまち・かわさき事業推進委員会は、「かわさき読書の日のつどい」を毎年開催しています。その中で、読書活動の推進にかかわる特色ある優れた取り組みをした個人と団体を表彰し、取り組みの奨励を広く市民に紹介しています。また、作家による講演も行われています。今年度は童話・絵本作家の角野栄子さんによる講演でした。今回の特集では、受賞した団体の取り組みを紹介しています。



II. 学校における子どもの読書活動の推進

教育委員会や読書のまち・かわさき事業推進委員会は、全市の市立小、中学校に推薦図書リスト「かわさき子ども読書100選」や「えほんだいすき」のリーフレットを配布し、読書活動への関心や意欲を引き出す取り組みを続けています。



① 宮前平小 図書ボランティア



中休みや昼休みに本の貸出・返却活動を行い、授業中も図書館に在駐し、子どもの調べ学習の補助を行っています。活動グループを貸出・返却活動と図書ボランティア定期だよりの作成とに分かれて活動の効率化に向けた取り組みを行っています。

活動内容は、日常的に書架の整理や部屋の清掃、本の修理等です。この活動によって本を大切にしようとする行動に繋がってきているといいます。テレビ神奈川「LOVEかわさき」でも紹介されました。



② 下小田中小ブックサポーター

全学年に定期的に朝の読み聞かせ活動を行っています。低学年から本に慣れ親しんでほしいと、1,2年生の開催頻度を増やす等の工夫をしています。また、低学年向けに「えほんのひろばコーナー」を整えたり、年に数回大型絵本やプロジェクター、パネルシアター等で「お話劇場」を続けています。このような地道な活動により、読書に対する意識が上がってきたといいます。

115名のサポーターが、研修会を開く等地域一体で意欲的に取り組んでいます。



③ 大谷戸小 図書ボランティア



本の貸出や返却の補助、高学年が活動する図書委員会にも参加し、子どもや先生と共通認識をもちながらサポートしています。

ボランティアの中には、卒業生の保護者がいて活動を円滑に進めるための役割を担っています。また、ボランティアの意識は高く、定期的に勉強会を開いたり、先生方と連携したりしながら「ブックトーク」を行っています。



④ 王禅寺中央小 図書ボランティア



朝、学級ごとや中休みに大型絵本を使い読み聞かせを行っています。読み聞かせで使った本に関心を示す子どもたちが多く、図書館利用の増加に繋がっています。

ボランティアは、研究会や勉強会、本の修理講習会、国立国会図書館の視察を積極的に行い、図書館運営にいかしています。



⑤ 幸図書館 語りの会 ストーリーテリング

図書館内や小学校で、絵本や紙芝居を使わず語り聞かせる「素話」を行っています。様々な年代に向け工夫・趣向を凝らしたお話し会も行っています。10年以上にわたり訪問している学校もあります。定期的に行う大人向けのお話し会では、リピーターが増え、地域に定着してきたといいます。夜の図書館を舞台に怖いお話し会やストーリーテリング講座の開催等、市立図書館と連携した活動も行われています。



⑥ 久末・読み語りの会

久末小学校は、週1回全クラスによる「朝の読み聞かせ」活動を行っています。

また、高齢者施設や保育園、中学校等地域の様々な場所でのイベントに参加したり、他区のサークル、団体との交流や勉強会を行ったりしています。



保育園では、手遊びや学年の雰囲気等に合わせ、読む本や内容をグループ内で検討しています。

⑦ 読み聞かせボランティア フチ・ごっこ

多摩市民館で行われた「読み聞かせボランティア講座」の受講生が中心となり「読み聞かせボランティア フチ・ごっこ」を発足し月1回の読み聞かせを始めました。年1回の「子育てのひろば」の拡大版イベント「子育て情報ひろば」では、事前に市民館と打ち合わせを重ね、本の展示やパネルシアター、読み聞かせ活動等を行っています。また、多摩区・高津区の5箇所の保育園でも読み聞かせ活動を行い、季節に合わせた絵本2~3冊を読む等、子どもたちの楽しみに繋がっています。



IV. 川崎市立図書館と新中原図書館による読書活動の推進

2013年、リニューアルオープンした新中原図書館は、中央図書館として次のような機能を持つ拠点の施設に再整備され①多世代の生涯学習の活動拠点、②「読書のまち・かわさき」の新たな展開の拠点、③市民の課題解決に役立つ資料・情報の拠点、④川崎市立図書館の中軸・拠点になっています。それらの一例として、子どもの読書活動を推進する「団体貸出室」や「ボランティア室」を設置し、学校をはじめとする子どもの読書活動やさまざまな団体への支援活動を行っています。



学校から依頼された本は、新中原図書館に集められ、各区の図書館へ配送されます。

V. 川崎フロンターレとの企業連携・協働活動

企業の事業所等に協力をもらい、民間活力を生かす取り組みを行っています。川崎フロンターレのプロサッカー選手によって発行される「フロンターレと本を読む!」や小学生向けのしおり等も配布しています。

小学生を対象にした読み聞かせや人形劇(ひとみ座と連携しながら)、紙芝居等は、川崎の特色が活かされている取り組みのひとつです。



ご存知ですか?

ビブリオバトル
小松雄也さんが代表理事を務めるビブリオポルトスの団体は、「ビブリオバトル」といって、各自が持参したお薦めの本を5分間で紹介し合います。最後にどの本が読みたくなったか投票し、「チャンプ本」が決定。読書の関心を高める方法として最近市立図書館で開催されています。(多摩図書館等で開催された時の案内ポスター)



施設めぐり

市内公的施設および当財団が運営管理する施設の紹介

宮前区

川崎市青少年の家

東急田園都市線 宮崎台駅下車、徒歩12分

TEL 044-888-3588

宿泊室や食堂、浴室があり、泊まりながらじっくりと研修や活動ができます。青少年の勉強会や、企業の研修等にも利用できます。

宿泊をしながら研修!



研修室1と2をつなげて使用できるため、最大72名までの大人数で研修等を行うことができます。

最大72名の研修室!



プレイホールや音楽室では軽めの運動やレクリエーション、音楽や演劇等の練習が可能です。

軽運動や音楽活動に!



園庭では薪を使って野外炊飯や小規模のキャンプファイヤーを楽しむことができます。

思い出に残る野外炊飯、キャンプファイヤー!



多摩区

川崎市立多摩図書館

多摩区総合庁舎地下1階 小田急 線向ヶ丘遊園駅下車、徒歩5分
JR南武線登戸駅下車、徒歩15分

TEL 044-935-3400



図書館入口

前身は1952年稲田公民館図書室が始まりで、1972年に多摩図書館と改名されました。1997年に多摩区総合庁舎のオープンと同時に、現在の場所に開館されています。地下1階にありますが、採光のため「サンクンガーデン(地下庭園)」が設置され、明るく気持ちの良いフロアとなっています。



特集コーナー

季節に合った子どもの本を紹介しています。



視聴覚コーナー

クラシック音楽を中心に約4,000枚のCDも揃えています。



おはなし会

多摩図書館では、毎月第1～4週の水曜日と第2土曜日に定例おはなし会を開催。また、年に4回、四季の特別なおはなし会も開催されています。

菅閲覧所も活用ください。
JR南武線 稲田堤駅下車徒歩5分
TEL 044-946-3271



中原区

川崎市平和館

JR南武線・横須賀線 武蔵小杉 駅下車、徒歩10分

東急東横線 武蔵小杉・元住吉駅下車、徒歩10分

TEL 044-433-0171



▲平和館正面入口

市民の平和に対する理解を深めるとともに、市民の平和交流の場として幅広く利用されることをめざし、1992年4月に開館しました。2014年4月に2階常設展示をリニューアルし、戦争や武力紛争の他、人権や地球環境等の資料も平和問題として展示されています。見学には、日本語をはじめ英語、中国語、韓国語による無料の音声ガイドの貸し出しもしています。

今後の事業予定

第3回ミニ企画展

「他と生きる・共に生きる」をテーマに広く市民等から募集した、写真やイラスト等を屋内広場に展示しています。
日時: 2/7(土)～3/1(日)

川崎大空襲記録展

川崎大空襲の被害状況等の写真パネルや実物資料等の展示を行い、戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和に対する理解を深めるために開催しています。

日時: 3/14(土)～5/6日(水)

▲核兵器数実態模型

▲戦時中の部屋を再現

情報ポケット

市内施設の各種取組と当財団が主催する講座等の案内

川崎能楽堂

JR川崎駅東口下車、徒歩5分 TEL 044-222-7995

川崎能楽堂は1986年4月に開館。開館以来28年以上にわたって開催が続く川崎市定期能は、昨年100回目を迎えた歴史ある能楽公演です。人間国宝の出演も多く、近年では「狂言全集」や「芸能サロン」等、狂言に特化した公演も開催しています。さらに、毎年夏休みに開催する「能楽体験・鑑賞教室」では、能のお話や楽器、仕舞の体験、能の鑑賞というプログラムを通して能楽をより身近に親しんでもらうための機会を提供しています。長い歴史と独特の様式を持つ能舞台の雰囲気や演者の息づかいを間近に味わうことができ、鑑賞だけでなく能楽教室の開催や仕舞、邦楽の稽古や発表会等幅広く利用することができる施設です。



△能楽堂

平成27年3月のイベント

平成27年3月1日(日)開催

「第104回川崎市定期能」

第一部 開演13:00(開場12:30)

- ・狂言「呼声」シテ：山本則重
- ・能「敦盛」シテ：和久莊太郎

第二部 開演15:30(開場15:00)

- ・狂言「伊文字」シテ：山本則秀
- ・能「小鍛冶」シテ：宝生和英

施設紹介

建物	2階建、鉄筋コンクリート構造
客席	148席(正面55、脇正面40、中正面53)
楽屋	和室10畳(1F)、和室10畳(2F)
その他	音響、照明設備、金屏風等

【入場料】

1部・2部 各4,000円(全席指定)

【チケット販売】

2015年1月30日(金)9:00より川崎能楽堂窓口にて発売

【受付時間】

窓口・電話 9:00~17:00

(発売初日のみ電話は12:00から。窓口完売の際は、電話受付はしていません。)

川崎市生涯学習プラザ 平成27年度 第1期陶芸教室 受講生募集のお知らせ

1.募集コース

○水曜コース 4月1日~7月8日(全12回)

- ①手びねりコース 9:30~12:30
- ②電動ろくろコース 13:30~16:30

●土曜コース 4月4日~7月18日(全12回)

- ①手びねりコース 9:30~12:30
- ②電動ろくろコース 13:30~16:30

2.会場：川崎市生涯学習プラザ地下実習室

3.内容：土(菊)練り、成形、削り、絵付け、釉かけ等

4.受講料：手びねりコース 33,000円

電動ろくろコース 39,000円

(受講料に含まれるもの：粘土代、釉薬代、焼成料等)

5.定員：手びねりコース15人 電動ろくろコース11人

6.申込み方法：往復ハガキに住所・氏名(ふりがな必須)

連絡先 TEL・希望コース(曜日とコース名)を明記

7.締切：平成27年3月16日(月)必着

8.申込み先：〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

9.問合せ：(公財)川崎市生涯学習財団事業推進室陶芸教室担当



手びねりコース



電動ろくろコース

2014年度 教室受講生作品



TEL 044-733-5893 FAX 044-733-6697

あとかき

■財団が発信する12月の「メールマガジン」巻頭文に「他者への想像力」についてふれている。■書店の書架にも、「悩む力」「鈍感力」「伝える力」等「・・・力」の出版本をよく目にする。■ところでピアノ調律師、ヤマハピアノテクニカルアカデミーの初代所長村上輝久さんは、「他者への想像力」について次のように後進に伝えてきたという。■「通常、調律は、ピアノの音程を合わせることと思われがちだが、それだけではない。コンサート前の緊張感の中でピアニストが何を考え、どういう音を欲しがっているかを判断(相手の心を読む力)してこそピアニストの求める音に近づく調律ができる」と。■ある著名人が、「ボランティアは支援を受ける側が、何をどのように望んでいるかを読んで行うことが大切」と話されていたことと「他者への想像力」とが重なる。



かわさき市民アカデミー

2015年度前期受講生募集のご案内

かわさき市民アカデミーは、生涯にわたる学習と社会参加を通して積極的に生きることを支援し、活力ある地域社会の創造を目指す市民のための学習機会を提供しています。

来年度「みどり学」講座は初心者向けの講座を新設、「自然(川崎学)」講座は2つに改編し、毎回抽選になる人気の講座が受講しやすくなりました。他にも短期集中講座、地域協働講座など、さらに充実した講座・ワークショップを用意してみなさまをお待ちしています。

【講座のご案内】

この春 新しい学びに挑戦してみませんか。

学びたいがきっとある！

詳しくは「講座のご案内」またはアカデミーHPをご覧ください。



- 受講対象：18才以上の方(市外の方も受講できます。)
- 受講料：2,160円～18,360円 ※講座・ワークショップによって異なります。
- 申込方法：FAX、郵送またはホームページから。
- 申込必要事項
 - (1)受講したい講座・ワークショップ名(複数受講可)
 - (2)名前(ふりがな)、生まれ年、郵便番号、住所、電話番号、FAX番号
※「2年会員」「1年会員」「聴講生」の3種類
「会員」は、別途入会金が必要です。
- 申込締切：会員、聴講生とも 2月20日(金)

1月中旬から川崎市生涯学習プラザ・川崎市内の図書館・市民館・市内公共施設に配架しています。

【申込み・問合せ先】かわさき市民アカデミー

〒211-0064 川崎市中原区今井南町 514-1 川崎市生涯学習プラザ 3階

Tel : 044-733-5590 Fax : 044-722-5761

ホームページ <http://npoacademy.jp>

かわさき市民アカデミー 検索

平成27年4月採用 嘱託(非常勤)職員を募集します！

1. 募集内容 嘱託(非常勤)職員 若干名(男女問わず)
2. 業務内容 生涯学習事業、施設管理・運営、経理、広報等の事務
※パソコン操作のできる方
3. 勤務場所 財団本部(川崎市生涯学習プラザ)または、指定管理施設等
4. 勤務条件
 - (1)勤務形態：シフト勤務で週4日(土・日、休・祝日を含む)
 - (2)勤務時間：1日7時間15分(8:30～16:45を基本とし、月数回12:55～21:10の遅番勤務あり。勤務場所により若干異なる。)
 - (3)給与等：社会保険(健康保険・厚生年金・雇用保険)に加入
給与は月額17万円。規程により通勤費相当額別途支給。
 - (4)雇用期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日まで
※勤務成績により年度ごとに上限4回までの更新あり
 - (5)休暇：「(公財)川崎市生涯学習財団嘱託職員就業規程」による。
5. 応募方法

財団ホームページの履歴書様式等をプリントアウトするか市販の履歴書に記載の上、写真を貼付し、「川崎市生涯学習財団志望の動機」を800字以内で作文(表題・氏名を含む)し、平成27年2月12日(木)までに届くように持参、または郵送(2月11日の消印有効)してください。
※ 詳細につきましては財団ホームページをご覧ください。

<http://www.kpal.or.jp/>

◆ 問合せ先・応募書類提出先 ◆

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1 川崎市生涯学習プラザ内
(公財)川崎市生涯学習財団総務室 職員採用担当
☎ 044-733-5560

ホームページからのお知らせ

かわさきの生涯学習情報 検索

講座・イベント情報

川崎市内で開催される様々な講座やイベントを紹介しています。情報を見つけやすいように検索システムを導入予定です。掲載ご希望の場合は、ホームページから講座・イベント記入シートをダウンロードしてお申込ください。(無料)

メールマガジン【KSJ Mail News】

(公財)川崎市生涯学習財団では、生涯学習情報の提供を充実させるためメールマガジンを発行しています。ホームページからお申込みできます。(無料)

